埼玉県立
歴史と民俗の博物館
THE MUSEUM
彩の国埼玉県
Vol.17-2 第48号 2022.7.1
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

わが国では、年間約 8000 件の発掘調査が行われ、多くの成果が蓄積されています。「発掘された日本列島」は、全国各地で実施された調査の中から、特に注目を集めた成果を紹介する展覧会で、文化庁の主催により毎年開催されています。今年度は当館からスタートし、その後全国の4施設を巡回します。

全国を巡回する「我がまちが誇る遺跡」、「新発見考古速報」、「おうちで学び・楽しむ埋蔵文化財」の各コーナーの他、当館で企画、展示を行った地域展「埼玉の史跡」もございます。

全国の特徴的な考古資料が集まる貴重な機会です。ぜひ御覧ください。

我がまちが誇る遺跡

各地で長年積み重ねられてきた調査成果を通じ、「地域の特性や魅力」を紹介するコーナーです。今回は長野県富士見町、京都府京都市、和歌山県和歌山市の3地域を取り上げています。

長野県富士見町の「井戸尻遺跡群～おらあとう（おれたち）の考古学と遺跡の保護～」では、縄文時代中期の非常に著名な遺跡群を取り上げます。遺跡の調査・研究において、地域の住民が積極的に関わってきた事例です。「おらあとうの村の遺跡は、おらあとうの手で掘り、おらあとうの村の歴史は、おらあとうの手で明らかに」という言葉は、文化財の保存活用を考える上で、非常に示唆に富んでいます。

（左）双眼五重深鉢　（右）四方神面文深鉢

京都市の「公家が繋いだ京都の文化」は、現在の京都御苑の範囲にほぼ相当する公家町遺跡からの出土資料を通じて、公家が守り伝えた京都ならではの文化を紹介しています。

公家たちは、伝統文化を維持し、時に途絶えてしまった文化の復興も担った一方で、舶来の陶磁器をはじめとした最先端の文化も積極的に取り入れていました。モノ資料から読み取れる、文献資料に残されていない情報は、公家の実態を明らかにする上で非常に大きな役割を果たしています。

和歌山市の「岩橋千塚古墳群の紀氏の古墳文化～石室と埴輪が織り成す紀伊の古墳文化～」では、特別史跡である岩橋千塚古墳群などから出土した埴輪や副葬品を展示しています。

双脚輪状文形の冠帽をかぶった人物、翼を広げた鳥をはじめ、この地域には独特の埴輪があります。横穴式石室にも特徴があり、後に中央貴族となった有力な古代豪族である紀氏の拠点に展開した、地域色豊かな古墳文化の様相を伝えています。

双脚輪状文形埴輪
（和歌山市教育委員会蔵）

盾持人埴輪の頭部
（和歌山市教育委員会蔵）

新発見考古速報

青森県から熊本県まで、全国各地の 14 遺跡から出土した資料を展示しています。これらの遺跡は、近年調査が実施されたり、報告がまとめられたりしたもので、その成果をいち早く御紹介しています。

ここでは、そこからいくつかをピックアップします。

①東小田峯遺跡（福岡県筑前町）

弥生時代中期を中心とした大規模な集落跡で、墓や土坑からは多数の丹塗り土器が出土しました。これらは日常的な土器ではなく、儀礼や葬送用に用いられたものと考えられています。形や見た目の雰囲気は埼玉県内出土の弥生土器とは大きく異なり、常設展示室と見比べると、地域ごとの特色がはっきりわかります。

②金井下新田遺跡（群馬県渋川市）

古墳時代後期の集落跡で、垣根で囲まれた区画と祭

祀に関わる遺物の存在から、有力者の拠点と考えられます。榛名山(はるなさん)の噴火による火砕流の被害を受けており、被災の様子が生々しく残っていたことも注目されます。

写真の首飾りは、ウマとともに火砕流に飲み込まれた、8歳前後と推定される子供が身に着けていたものです。

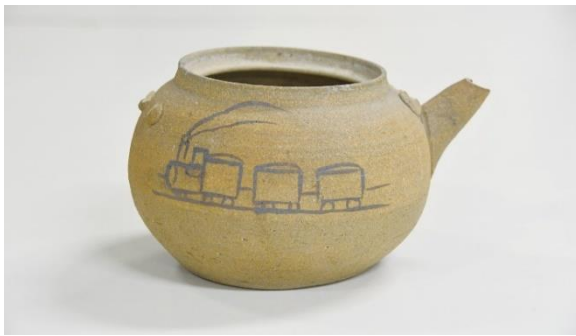
東小田峯遺跡・丹塗りの注口土器
（筑前町教育委員会蔵）

金井下新田遺跡・首飾り
（群馬県教育委員会蔵）

③旧新橋停車場跡及び高輪築堤(たかなわちくてい)跡（東京都港区）

明治5年（1872）に開業した日本最初の鉄道の遺跡で、海上に線路を通すために築かれた堤の発掘調査は、近年大変話題になりました。

本展覧会では、旧新橋停車場跡の調査で出土した明治時代の切符、荷物札などの鉄道関係遺物を展示しています。



旧新橋停車場・汽車土瓶
（東京都教育委員会蔵）

おうちで学び・楽しむ埋蔵文化財

新型コロナウイルス感染症の流行後、博物館や遺跡を訪れることへの制限が生じました。これを受け、多くの博物館等では、オンラインで情報を発信することで家にいながら文化財を知り、親しむことができるような取組みを工夫し、実施してきました。

このコーナーでは、文化庁の YouTube チャンネルでの遺跡解説動画の公開をはじめとした、いくつかの事例をパネルで紹介しています。

地域展「埼玉の史跡」

このコーナーは、当館企画による展示です。埼玉県内に所在する 22 か所の国指定史跡の中から、縄文時代の貝塚、特別史跡・埼玉(さきたま)古墳群、比企(ひき)地域に所在する中世の城館跡を取り上げ、近年の発掘調査成果や史跡整備の状況について解説します。

これらの遺跡は、県内の各時代、各地域の特徴をよく示すものです。古くから調査、整備が進められてきた遺跡もあれば、近年の継続的な調査成果がまとめられ、整備、活用の形が検討されている遺跡もあります。調査で明らかになった各遺跡の意義を効果的に伝えるため、様々な工夫がされています。

博物館で展示されている土器などを見ることで学べる事は多いですが、遺跡を実際に訪れることは、地形や周囲の環境を含め、各遺跡への理解を一層深めることに繋がります。県内の国指定史跡を解説するパンフレットも配布しているので、展示を御覧になった後は、ぜひ各地を訪れてみてはいかがでしょうか。

埼玉を中心とした展覧会と異なり、様々な地域の出土遺物をまとめて見られる機会です。日本列島各地の個性豊かな資料を通じて、我が国の歴史の多様性を感じるとともに、その中における埼玉ならではの特色についても考えていただけると幸いです。

（展示担当　堀口智彦）

歴史展示「鎌倉殿と武蔵武士」

令和４年のNHK 大河ドラマは「鎌倉殿の 13 人」です。主人公は鎌倉幕府の第２代執権北条義時で、「鎌倉殿」すなわち鎌倉幕府の首長（将軍）と、幕府内部の有力者であった 13 人の御家人がクローズアップされています。三谷幸喜氏の脚本により、鎌倉幕府や京都の公家社会などをめぐる様々な人間模様が鮮やかに描き出されています。

今回の大河ドラマで主な舞台となる平安時代末期から鎌倉時代前期は、埼玉県の歴史の上でも大変ドラマチックな時代です。それは、県域を含む武蔵国（現在の埼玉県・東京都のほぼ全域と神奈川県の一部）に本拠地を持つ武士である武蔵武士が大活躍した時代でもあるからです。

当館の常設展示室第３室では、普段から「武蔵武士」を中心テーマとした展示を行っています。今回の歴史展示「鎌倉殿と武蔵武士」は、大河ドラマの放送にあわせて、この展示室の内容を再構成したものとなります。

展示は、「鎌倉殿と執権」、「源平合戦」、「鎌倉幕府の古文書」、「十三人の合議制」、「武蔵武士の活躍」という５つのコーナーで構成されています。鎌倉殿や武蔵武士ゆかりの文化財などについて、当館所蔵資料に一部借用資料を交えた合計 17 点を展示します（会期：令和４年５月 31 日（火）～７月 31 日（日）、会期中展示替あり）。

ここでは、本展の主な見どころとなる資料を御紹介します。

一つ目は「源平合戦図屏風」（当館蔵）です。江戸時代前期、17 世紀に描かれた六曲一双の屏風で、右隻には一の谷の戦い、左隻には屋島の戦いの様子を描いています。

それぞれの戦いについては、『平家物語』を題材とした様々な名場面が、画面上に散りばめられています。特に有名なのは、熊谷直実が馬に乗って海中に逃れた平敦盛を呼び戻す場面や、那須与一が竿の先に立てた扇を射落とした場面です。６月 26 日（日）までは右隻、同 28 日（火）からは左隻を展示します。

源平合戦図屏風（当館蔵、上が右隻、下が左隻）

二つ目は、鎌倉幕府が武蔵武士に宛てて出した古文書３通です。いずれも埼玉県指定文化財に指定されている貴重な古文書の原本で、所領の相続を認める内容となっています。

「光西寺松井家文書」（川越市光西寺蔵）からは、鎌倉幕府が現在の熊谷市域に本拠地をもつ別府氏・西条氏に出した寛元元年（1243）の将軍家政所下文及び文永9 年（1272）の関東下知状、「金子家文書」（個人蔵）からは、現在の入間市域に本拠地をもつ金子氏（源平合戦などで活躍した金子家忠の子孫）に出した弘安5年（1282）の将軍家政所下文を展示します。

将軍家政所下文（金子家文書、個人蔵）

（展示担当　根ヶ山泰史）

昭和の原っぱ 遊び道具再開!!

○昭和の原っぱ

昭和の原っぱはゆめ・体験ひろばのものづくり工房に隣接している無料の屋外スペースです。

木の塀に囲まれた広場の中に、ポンプ式井戸や駄菓子屋、丸い郵便ポストなど1960～70年代の昭和の雰囲気を再現しています。特にスバル360は1960年代を代表する車で、今でもごくまれに路上を走る姿を見ることができるそうです。

当時を知る人には懐かしく、若い人には新鮮に感じることができる空間です。

○4つの遊び道具

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止していた遊び道具が4月19日より再開しました。フラフープ、けん玉、こま、ベーゴマの4種類です。今回はその中からベーゴマについて歴史や遊び方を紹介します！

【ベーゴマとは？】

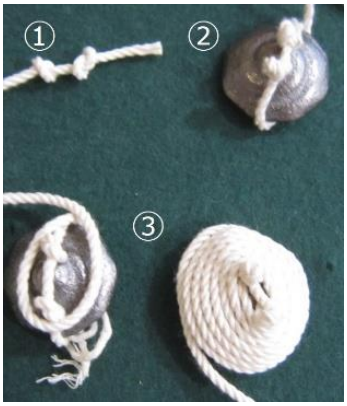
そもそもベーゴマとは鋳物でできた小さいコマのことで、「床」と呼ばれる台の上に同時にコマを投げ入れ、はじき出されずに残った方の勝ちというのが基本ルールになります。

起源は平安時代にバイ貝の殻に砂や粘土を詰めて紐で回したのが始まりと言われています。明治・大正時代に現在の鋳物型になりました。ベーゴマという名前は貝独楽（バイゴマ）がなまってベーゴマになったことが由来とされています。

【遊び方・巻き方】

ベーゴマには紐の巻き方が2種類あります。1つ目は初心者向けの巻き方で、女巻き、または関東巻きと呼ばれます。2つ目は難易度の高い男巻き、または関西巻きと呼ばれる巻き方です。今回は初心者の方向けの女巻き、もしくは関東巻きを皆さんに伝授します。

①まず紐に約1センチ間隔で結び目を 2 つ作ります。
②その結び目をベーゴマの先端部分に引っ掛けます。
③その後、右利きの方は反時計回り、左利きの方は時計回りに紐を巻きます。



最後に紐をまいたコマを持ち、手前に投げます。

10月には当館でベーゴマ教室も開催されますので御興味のある方はぜひお申し込みください。

○プラス情報　～南門の開放～

5月1日から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で閉門していた南門を開放しました。従来、昭和の原っぱへ行くルートは正門から館内に入り、ゆめ・体験ひろばを通るのみでした。今回南門を開放したことにより、館内からだけでなく外からでも昭和の原っぱに入ることができるようになりました。

未だ新型コロナウイルスが流行しており、先の見えない世の中ですが、当館昭和の原っぱで楽しんでいただければと思います。

皆さんの御来館お待ちしております！

（学習支援担当　原綾音）

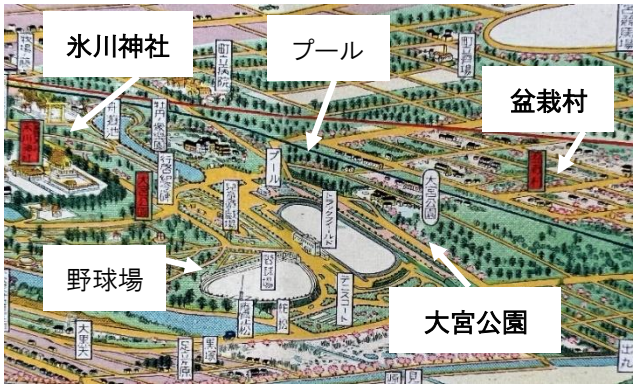
大盆栽まつり、3年ぶりに開催！

令和 4 年 5 月 3 日(火)～同 5 日(木)、盆栽の「聖地」大宮盆栽村の恒例行事、大盆栽まつり(同実行委員会主催)が、新型コロナウイルス感染拡大による 2 年連続の中止を経て 3 年ぶりに開催されました。

盆栽村と大盆栽まつり

大宮盆栽村とは、現在の東武野田線(東武アーバンパークライン)大宮公園駅の北側の地域(現さいたま市北区盆栽町)の、盆栽園が集中する地区です。

盆栽村は、大正 12 年(1923)の関東大震災後、東京の盆栽業者が集団でこの地に移転して村を作ったことに始まり、昭和 3 年(1928)には盆栽村組合が発足しました。この頃には盆栽村は、当時野球場などが相次いで建設されていた大宮公園とともに地域の名所になっていきました。



大宮公園と盆栽村（埼玉県大宮保勝会「鳥瞰図　大宮」（吉田初三郎原画、昭和9年10月発行、当館蔵）

その後、戦時下には盆栽がぜいたく品として圧力を受けたことや業者、愛好家を含めた人々の徴集などの影響を受け、盆栽村でも廃業する盆栽園が増加しましたが、戦後に再び活気を取り戻し、昭和 59 年(1984)には大盆栽まつりが始まりました。大盆栽まつりは、毎年一度大宮に盆栽愛好家が集う一大イベントとして定着し、今年で 39 回目の開催です。

3 年ぶりの開催

今年の 5 月の連休は、3 年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなりました。加えて好天に恵まれ、4 日、5 日は最高気温 25 度を超える夏日となりました。

感染対策として例年より出店数が削減されたり、セレモニーが省略されたりしたものの、大盆栽祭りの会場には各地の愛好家や地元の人たちが大勢訪れ、買い物を楽しんでいました。外国人来場者は少なかった一方、若い人の姿が多く見え、コロナ禍の園芸ブームともいわれる雰囲気を感じました。

博物館の活動

当館は大宮盆栽協同組合の御厚意により、地域連携の一環として平成 18 年度(2006)から大盆栽まつりに参加しています。といっても、他の盆栽園のように盆栽を販売しているわけではありません。

毎年、盆栽四季のみちに 1 区画ブースをお借りし、博物館のイベントや、MVO(ミュージアムヴィレッジ大宮公園。大宮公園駅を中心とした 9 施設の連携の名称)の広報を行わせていただいています。過去には、職員が甲冑のレプリカを着装して広報活動をしたこともありました。

従来は職員が沿道に出てチラシをひとまとめにしたものを手渡していましたが、今回は感染対策として往来の皆様に自由に配布物を手に取ってもらう形となりました。

博物館のブースの様子（令和 4 年 5 月 4 日撮影）

チラシを御覧になったお客様からは、「この前企画展を見にいきました。」、「これから行ってみます。」といった温かい御言葉をいただきました。また、遠方からお越しの方には、MVOのガイドブックを用いて「せっかくこの地域に来たならぜひ…」と周辺の施設を御案内することができました。この 3 日間の当館エントランスロビーの記録によると、盆栽を携えて御来館し、受付に盆栽を預けて御観覧いただいた方が多数いらっしゃったようです。

他方で、当館エントランスロビーのMVO特設コーナーでは、大盆栽まつりの開催案内を 4 月から配布していました。また、当日も当館受付で会場への行き方を尋ねた方が少なからずおり、大盆栽まつりへのお客様の御案内にも一定の貢献ができたと思われます。

今後も、地域の施設として相互に連携し、様々な活動を続けていけるよう尽力してまいります。来年の大盆栽まつりには、ぜひ足を運んでみてください。

（企画担当　木村遼之）